

プラゴミ⁰の

きれいな海を未来へ

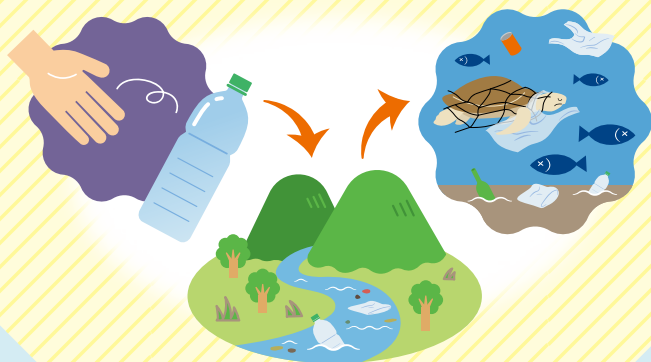
～海の未来を守るために、プラスチックごみ削減を始めよう～

海は地球の生命を支える重要な存在であり、「母なる海」とも言われています。海は酸素をつくり、気候を調節し、多くの生物のすみかとなっています。また、私たちの食料や経済活動にも欠かせない資源を提供しています。しかし、今、海洋プラスチックごみが海の環境を脅かしています。

海洋プラスチック問題とは

私たちの生活の中で発生するペットボトルやストローなどのプラスチックごみは、適切に処理されないと、川などをつたって最終的に海に流れ出てしまいます。

2050年には、この海洋プラスチックごみの量が魚の量を上回ると言われています。



海洋プラスチックごみが海に及ぼす影響

美しい海岸などの景観が損なわれるだけでなく、魚や鳥がエサと間違えてプラスチックを飲み込んでしまい、これが原因で死んでしまうことがあります。



…知ってる? マイクロプラスチック…

大きさが5mm以下になったプラスチックのかけらをマイクロプラスチックといいます。

マイクロプラスチックが海に流出すると回収することは困難で、魚などの生物に影響を及ぼすことが懸念されています。



海のごみを減らし、きれいな海を守ることは、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守る「ワンヘルス」にもつながります。

地球の生命が生まれたと言われる海。美しい海は、私たちの宝であり、次代への大切な贈り物です。しかし、今、その海に多量のプラスチックごみが流れ出し、海の生き物や環境だけでなく、海から多くの恵みを受けている私たちの生活にも悪影響を及ぼしています。

これは、後回しにすることが許されない問題です。県では、不要なものを発生させない、使えるものは繰り返し使うといった取り組みに加え、使用済みプラスチックを資源として製品化する仕組みもつくってまいります。

皆さん、かけがえのない「母なる海」を守り、未来の子どもたちに繋いでいくため、日常の中で、私たち一人一人が出来ることから始めましょう。

皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

福岡県知事 服部 誠太郎

